

府民会議メンバーによる鴨川に係る意見発表

(事前に提出いただいたもの)

氏名	内田 正明／公募委員
テーマ	鴨川公園の管理（河川空間の快適利用）に係る一提案
提言 したい 意見	<p><u>1. 公園の管理の一部に、住民の参加する場面を設定する</u> ことを提案します</p> <p>鴨川公園が品位を保った展開を永くつづけてゆくためには、利用者である住民にも正当な管理意識を共有し深めることが求められると考えます。そのためには、鴨川に関する事には自分のことのように関心がある“鴨川ファン”を自任している人を増やすことを公園の管理目標の中に加えることが効果的だと考えます。</p> <p>当会議に出席の団体や委員の方々のご活動はこの範疇に属すると考えますが、ここではさらに地区に根付いた活動をする鴨川ファンを考えます。</p> <p>個人や地区などで、関係する特定の場所や設備、植生群などの日常点検や管理の一部を楽しんで受託していただけることを想定します。そうしますと管理者と家族友人など周囲の方々は自然に深い管理意識を共有するようになります。地区を基盤にする鴨川ファン多数の、管理に参加する公園=幾分か自分の公園という意識からは、自然に公園の品位を高めてゆく作用が期待できます。結果的に維持コストの低減になることも考えられます。</p> <p>項目には、例えば、芝地や低木の日常観察・報告、水やり、簡易な剪定などの管理を提案しますが、これらは日常の鴨川散策途中で特に気懸りになる項目で、素人で対応出来るものと感じている項目です。各地区で受託を希望される特定のものがあることを期待しますが、場所や設備、植生群に管理者の名前や年度を表示して称えることも対価として受け入れられるかもしれません。何かの事業に参加したいと考えている“鴨川ファン”が居られるものと感じますので、委託や責任の範囲などの前提を定めて鴨川ファンを活性化し、住民が楽しみながら日常管理している高度な公園の使用状態を実現したいのです。</p> <p>付随して、</p> <p><u>2. 鴨川公園に地番を付けておく</u> ことを提案します</p> <p>川沿いに、国道の里程標のようなものを定めて、何かを決めて委託したり、成果を表したりする場所を特定できるようにする。</p> <p><u>3. 鴨川公園の整備では、事業前・事業中に現地に完成時の姿を絵（地図等）で掲示するようにし、また意見を聞く方法も用意して掲示する</u> ことを提案します</p> <p>いろいろな整備事業が進行中ですが、公園を使用している者の目からは、完成するまで何の整備か不明のまま、結局は出来上がった公園を使っているという意識なることを懸念しています。現地しか見ない利用者にも道か、階段か、築山か、ステージなるのか等が期待出来るようにしておきたいのです。現地ならではの要望が出てくれば、出来上がるものの値打ちを増すことになるでしょう。予期ができれば、完成する施設への親近感もより増すもので、鴨川ファン育成には必須と考えます。</p>

氏名	大年田 英子
テーマ	1. 私たち 鴨川流域住民側の洪水対策について 2. 堰について
提言したい意見	<p>1. 鴨川河川整備計画(案)は、淀川・桂川との整合を図って「30年に一回起こり得る降雨による洪水を流下させることを目標とする」とあります。近ごろの集中豪雨を思うとき(読新聞2008.8.21)、この間さまさまに出されたソフト対策は住民側に届いているだろうか、もう少し一歩進めてゆく必要があるのでは……と。(『千年の都と鴨川治水』^{H15.3} 読新聞土木建設部 河川課)</p> <p>① 『府・鴨川浸水想定区域図』(H15.5) 『京都市防災マップ』(H16.8~17.3) に、自宅をあてはめて予想してあげた。たとえば「100年に1回、東海豪雨」のときの水深のしるしを家につける(奈良)</p> <p>② 洪水予報(『きょうと府民だより』2009.6.1)を知る。</p> <p>③ 行政も被災することを十分考えて、①の結果によっては、避難経路をばきり決めて、先ず家族、隣、町会と助け合うシステムをつくる。学区自主防災会会長たちと話し合い機会(府市協調課)も持つてほしい。</p> <p>④ 6月29日に、昭和10年の鴨川大洪水の様子を写真パネルで一日だけ見せる。これは昨年、河川課がされた取組み(於北大路ビル)。これはとてもいいですね。先斗町などいろいろのところを一日のみの企画されたい。</p> <p>⑤ 雨水タンクで「豪雨はためろ」(朝日新聞2009.4.17)。川のことをしらべると何故か雨水タンクにたどりつきます。下水道への負担を減らそう。下水道は1時間50リ程度で設計されているようで、それ以上は私たち、学校、企業で貯蓄できないか。(京都市助成金制度 昨年迄95件)</p> <p>⑥ 浸透性アスファルト、タイル(穴あきダムと同じでつまってしまう)情報も、ほんとうかどうかしらべて下さい。</p> <p>2. 桂川の「せき」も乙訓自然を守る会(魚類研究会)でしらべておられるようです。鴨川らしい(京都らしい)せきをその柱にして、改良出来ないものでしょうか。</p>

【セーヌ川にサケ戻る】
【パリ10日共同】フランス釣り協会は十日までに、パリ郊外スレンヌのセーヌ川でパリ在往の釣り人がサケを釣り上げたことを発表した。同協会によると、パリ周辺でサケの存在が確認されたのは約八十年ぶり。協会は「水質改善などの努力が報われた」と言っている。

このサケはスレンヌのセーヌ川に設置された水運用のせきの近くで三日に釣れた。大西洋が起源のサケで、体長九七センチ七ミリ。うろこを分析して生息の経過を探ることにしているという。

パリ周辺のセーヌ川水系では、一九二〇年代にパリ南東ヨンスンヌで確認されたのを最後にサケは姿を消していた。水質悪化や多数のせきの設置が原因とみられている。

協会は「今回のサケの発見で水質改善の努力を続ける勇気が得られた」と強調。サケの遡上(せき)が容易になるようセーヌ川のせきの改善を訴えた。

意見発表

氏名：楠田恭一

テーマ：鴨川・高野川の水量減少について

提言したい意見： わたしは「京の川づくり」事業とは「京都の川のブランド化」だと思っています。なので、『さすが京都やなあ』と言われる川を作れないものかと考えます。

平成元年に鴨川電気鉄道株式会社から発行された「鴨東線建設工事の概要」という小冊子の表紙には御池から今出川まで寄り州も中州もない真っ直ぐな鴨川の写真が載っています。浚渫工事はされていたのですが、水量は現在よりも多かったみたいです。(資料1)

平成11年に出町ホテルの会を作り、以降は出町へ行くごとに鴨川を眺めています、水量が減っています。

近年の降水量降雪量の減少により、特に加茂大橋から上流の減少は、かなりすすんでいます。温暖化の影響で今後もこのような状態が進んでいくだろうと予測される今こそ、水源の森の整備が緊急かつ重要だと考えます。

山の現況がどうなのかは素人なので判りませんが資料2のようなことが起きている、ということです。

まずは見学に行き、雲ヶ畑森林組合に山の現況について話を聞く事を提案します。

平成元年1月20日 近代化委員会

鴨東線建設工事の概要

鴨川電気鉄道株式会社

昭和61年4月



2008 年 11 月撮影

祖父谷と棧敷ヶ岳の分かれ道あたり。祖父谷川対岸の山崩れ



意見発表様式

別紙

氏名	菅 恒 敏
テーマ	1. 鴨川に「緑の回廊」作りの取り組みについて 2. 「鴨川博物館」(仮称)の設置について
提言 したい 意見	<p>1. 鴨川に「緑の回廊」作りの取り組みについて</p> <p>鴨川の上流域両岸は、既に並木が整備されている状態にあるが、下流域(御池橋以南)の西岸は樹木がまばらな所が目につく。これら並木のまばらな所に植樹をして並木を整備するとともに、既に並木のあるところも植栽の出来る空間があれば、更に樹木を密に植えてこんもりとした森のような部分を作ったり、また植栽には花木・実の成る木を植えたり、更には桜並木を増植するなどの工夫を凝らし、鴨川全域に「緑の回廊」を作ることにより、鴨川の景観向上のみならず、憩いの場として、また生態系保全の場として、更には地球温暖化防止に寄与せしめる場とすることを提言する。</p> <p>2. 「鴨川博物館」(仮称)の設置について</p> <p>鴨川は長年の間、景観・防災・環境・生態系保全・教育などの広い範囲にわたって、京都の文化的・経済的発展に大きな影響を及ぼし、文字通り「生きた歴史的遺産」としての機能を発揮してきた。これらの機能全域に関わる資料を整備・保全するとともに、さらに鴨川の現在・未来に関わる資料を加えて、一般府民に公開する場(鴨川博物館)を設置することを提言する</p> <p>この博物館は、単に展示のみならず、体験学習をしたり、資料を検索したり、時には講演会などを開催することも出来るようにして、鴨川をより多くの人達に親しんでいただく場とするとともに、鴨川の保全意識を高め、さらには鴨川の歴史的遺産としての意義を高める場とすることを期する。</p>

氏名	杉江 貞昭
テーマ	1. 治水対策(洪水発生防止策・人的等被害の防止策等)について 2. 生活環境、特に橋下の環境整備について
提言したい意見	1. 洪水発生防止策について <ul style="list-style-type: none"> ・源流域(高野川含む)の林務関係との連携による森林の保水能力向上政策の確立 ・源流域(高野川含む)の砂防堰堤の点検と整備 ・中州の除去と整備については既に整備計画がされていますが早急に着手すべきは鴨川と高野川合流箇所と北大路橋付近の中州を除去すべきと感じております。 ・鴨川の河床を流域によって少し掘り下げの検討をしては良いのでは。 ・降水量の多い時における合流式下水道からの流入量と整備状況及び将来の計画？。 ・降水量の多い時における白川分水路からの流入量と鴨川での対応は万全か。 1. 人的等被害防止策について <ul style="list-style-type: none"> ・現在、鴨川では河川防災カメラの設置、雨量、水位、洪水予報情報については京都府ホームページで知ることができますが、河川敷に来ている子どもたちや通行人には情報は伝わりません。 如何に早く河川敷におられる方を退去して頂くには音(サイレン・ブザー等)と目視(赤や黄色の点滅灯等)で情報を知って頂く方法を考えては。 2. 生活環境等について <p>昨年4月より鴨川条例が全面施行された事と河川管理局の努力もあって放置自転車、バーベキュー等の不法行為も激減してきたかと思われまます。</p> <p>本年度の第1回鴨川定例クリーンハイクを4月29日実施のゴミの量より6月7日実施の時は減少していましたが河川敷の草が茂った所にはやはり多くのゴミが隠されておりました。(除草作業は不可欠と感じました)</p> 2. 橋下の環境整備について <ul style="list-style-type: none"> ・橋の位置によっては親水性を配慮した快適な環境整備を考えてはどうか。 特に二条大橋、御池大橋、三条大橋の右岸はみそそぎ川を活用した整備を望む。 ・元来、道路に接する橋下は上からは見えない日陰的な場所であるが鴨川の場合は散策路として利用、又観光に来られる方も多く他府県にない橋下の景観を創造してはどうか。 ・橋によってはガスや水道等のライフラインが橋下に通っているため保護策等の安全管理の充実。